

このたびはSSC(ササキスポーツクラブ)オリジナルパーツをお買い上げいただき誠にありがとうございます。
取付作業を行う前にこの取扱説明書を熟読してくださいますようお願い申し上げます。
開梱時に部品の欠品・不具合等がございましたら下記までご連絡ください。

(有)ササキスポーツクラブ TEL059-386-5600

三重県鈴鹿市稲生町7343-1

■ 注意 ■ (下記の内容を厳守されない場合には重大な事故の原因となることがあります)

- ・本製品の取付作業は製品および車両をよく理解した人が実施してください
- ・取付作業に自信がない場合、取付作業は専門のワークショップへ依頼してください
- ・作業ミスにより生じたいかなる物的・人的損害につきましても弊社では責任を負いかねます
- ・取付後は定期的に取付状態の点検・調整を実施してください
- ・一度車両へ取り付けた製品の外観異常によるクレームは原則として受け付けません
- ・製品の加工・改造は絶対に行わないで下さい

■ 重要情報 ■ (この製品はBMW純正アクセサリと干渉します)

- ・この製品はF800ST用ナビホルダーブラケット(品番71607676948、71607693126)と
同時に装着することができません

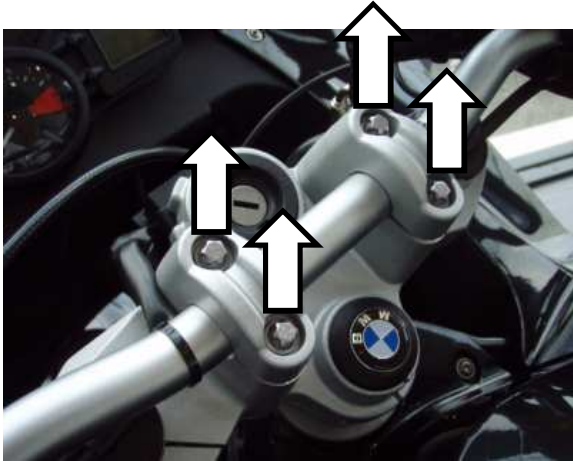
作業実施前に

- ・車両のエンジンを停止し、センタースタンド等により車体を確実に固定してください
- ・必要に応じて作業中の車体への傷付きを防止するために適切な処置を実施してください



梱包内容

ハンドルセットバックキット × 2セット
(左右の区別はありません)
テーパークャップボルトM8x25 × 2本
キャップボルトM8x30 × 2本
タイラップ × 1本

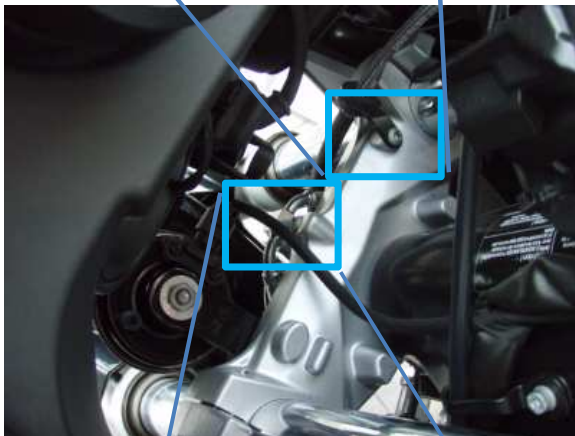
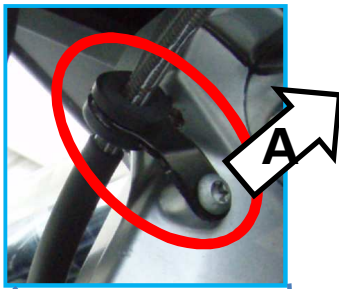


(1)
左で図示されたボルトを緩め、ハンドルバークランプを取り外します。なお外したボルトは再利用します。

次にハンドルバーを取り外します。

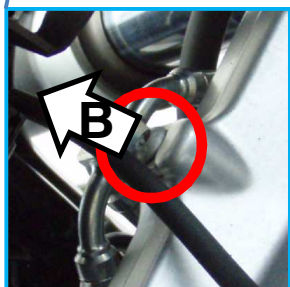
！ 警告 ！

以下の手順は重要保安部品に関する作業が含まれます。
そのため必ず適切な作業環境において、十分な整備技術を有する人が作業を実施して下さい。



(2)
左図Aのボルトを緩め、ブレーキホースを固定している赤丸で囲まれたプレートを取り除きます。このプレートは再利用しませんので保管しておいてください。

(3)
左図Bのボルトを緩めて一旦取り外し、メッシュホースが自由に動くようにします。このボルトは再利用するのでなくさないように注意します。

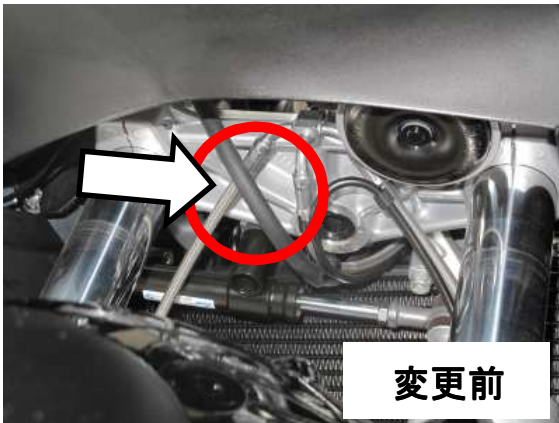




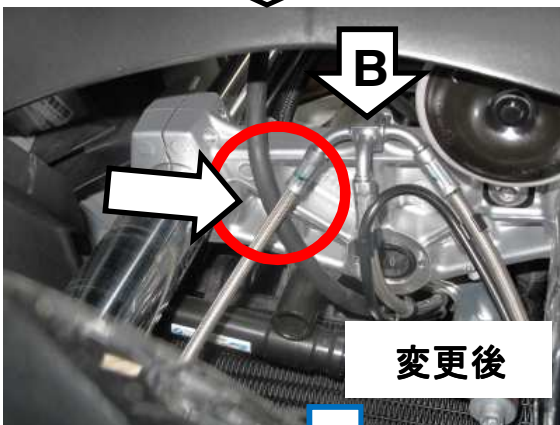
- (4)
フロントのブレーキホースの取り回しを変更します。

所定の方法でフロントブレーキシステムのフルードを排出します。
その後に、左図で示されたバンジョーボルトからホースを取り外します。

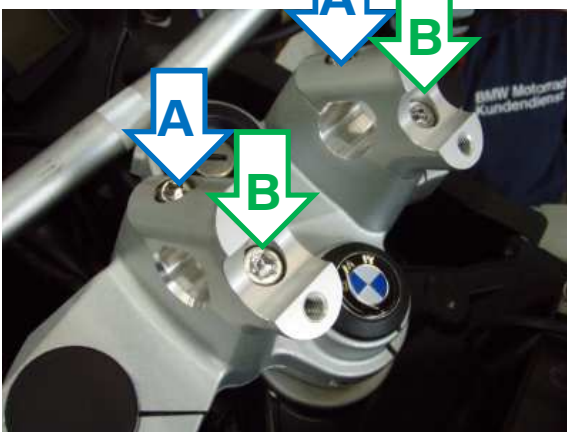
(！)ブレーキフルードが車体に付着しないよう慎重に作業を行ってください。



- (5)
左図のようにステアリング下部でメッシュホースの下側を通っているブレーキホースを、その内側にくるように通し直します。
その後で手順(3)で外したボルトBをつけ直し、メッシュホースを固定します。



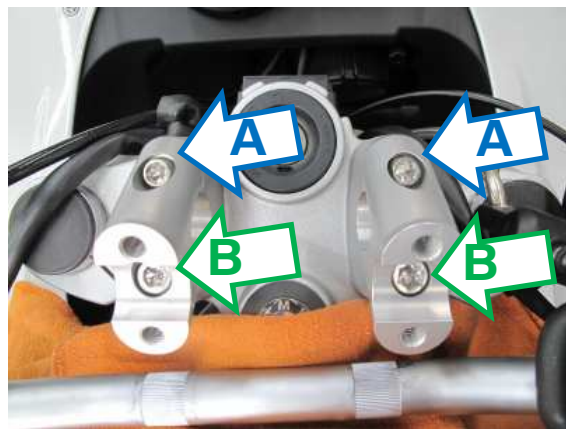
- (6)
外したバンジョーをつけ直します。
ブレーキフルードを補充します。
フロントブレーキシステムのエア抜きを所定の方法で実施します。



- (7)
ハンドルセットバックキットをトップブリッジの上に置きます。
(左右の区別はありません)
- (8)
付属のボルトで仮留めします。
左図AにはテーパキャップボルトM8x25を、
左図BにはキャップボルトM8x30を使います。



(9)
仮留めしたセットバックキットの上にハンドルバーを仮置きします。そして左図の赤丸で囲われた部分を点検し、セットバックキットの溝とハンドルバーが並行になっていることを確認します。並行でなければセットバックキット側を調整します。



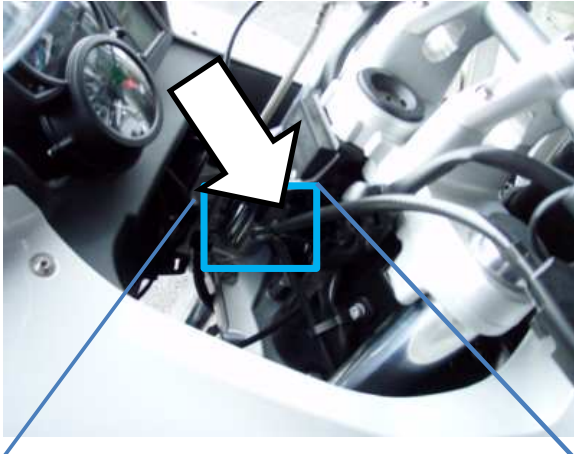
(10)
左図のボルトAとBを指定トルクで締め付けてセットバックキットを固定します。

締め付けトルク
ボルトAおよびB 20Nm



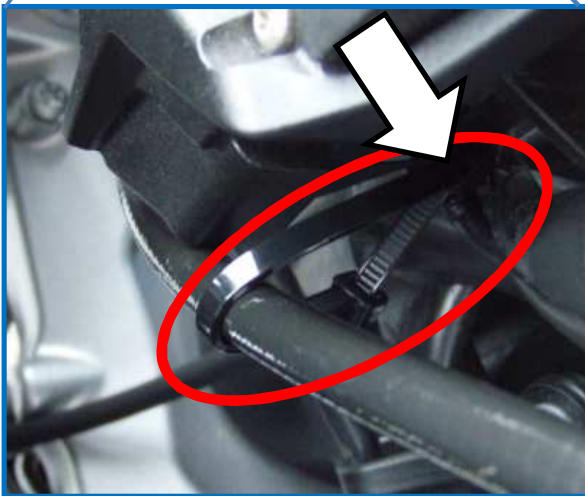
(11)
ハンドルバーをセットバックキットへ取り付けます。その後、ハンドルバーランプを取り付け、手順(1)で取り外したノーマルのボルトを使用して固定します。
最初に車体前方側(左図C)のボルトを指定トルクで締め付けます。次に車体後方側(左図D)のボルトを指定トルクで締め付けます。

締め付けトルク
ボルトCおよびD 20Nm



(12)

クラッチワイヤーの取り回しを調整します。
製品付属のタイラップを左図で図示された箇所の穴に通し、クラッチワイヤーを写真のように囲います。そしてハンドルを左右に切り、クラッチワイヤーが過度に引っ張られたりはさまれたりしない位置に収まるよう調整します。



(13)

全ての部品の取り付け状態を点検します。そしてハンドルを左右に切ってケーブルやホースが引っ張られたり挟まれたりしていないこと、ブレーキシステムが正常に作動することを確認します。
製品装着後、短い距離で慎重に試運転を行い、実際の操縦に支障がないことを確認します。

その後も定期的に全ての部品の状態を点検・調整して下さい。